

私はこうした個所の植生の復元ないし修景は、一般の造園家がやるように成木等を植え込んで、人工的景観を出来るだけ早く造成しようとするよりも、自然のままに植生が回復してくる過程を観察しながら、その

回復を人手をかけて助長してやるのがよいと考えているので、速急な多分に人手を加えた方法はとらないつもりである。

(京都大学名誉教授、日本モンキーセンター所長)

〔植物ニュース〕 (11) オオヒメワラビモドキ

*Athyrium unifurcatum* (Bak.) C. Chr. 暖帯の植物であるこのシダが昨年北安曇郡小谷村にあるのを見つけた。大網部落下の北斜面、海拔 260m くらいの地点でスギ・トチノキ・ケンボナン・オニグルミなどの林下でコタニワタリ・ヤブソテツ・リュウメンシダ・オオクジャクシダ・ジュウモンシダなどシダ類の多い所に 9 株混生していた。このシダの裏日本における分布は佐渡と越中以西とされて長野県では太平洋側を含めて初見である。標本は倉田悟博士に同定していただいた。

(12) ヒナチドリ *Orchis chidori* (Makino) Schltr.

本種は東北地方南部から南に分布する温帯の植物であるが本県での産地としては下伊那郡東部の山地以外は知られていなかった。過去の木曽谷の調査に当たっても見ることができなかったが昨年三股営林署従業員の協力によって、ようやく南木曽町の国有林にもあることを知った。落葉樹の高い所に着生しているので見つけにくく、採るのは困難である。

(13) マルバウマノスズクサ *Aristolochia contorta*

Bunge 東北アジアに分布しているこの種のが国における産地は島根・長野・山形の 3 県と佐渡とされていて本県内では佐久地区の産が知られ、下川頼人氏によれば大町市にもあるということである。筆者は一昨年木曽福島町で見たのを昨年花期に訪れて種を確認することができた。分枝の多い蔓草であるから株数を知ることではできなかったが 20 株以上はありそうで多数の花をつけていた。場所は東に木曽川を見下す台地で附近は野菜畑で住宅にも近く近年宅地化が進んでいるので根絶するおそれもある。

(14) ツゲ *Buxus microphylla* Sieb. et Zucc. var. *japonica* Rehd. et Wils. 県下におけるツゲの自生

地は木曽の阿寺国有林であり戸隠神社にあるのは植栽とする見方が強い。筆者は昨年秋、北安曇郡小谷村姫川温泉北方の、土地の人が“だるま山”と呼んでいる大岩壁に多数あるのを見つけた。この岩壁は標高が 250m くらいの所に立つ高さ 100m くらいのもので、大部分は南面している。ツゲはこの岩壁の岩隙や小さな岩棚に根をはって簇生状である。葉は倒卵状長楕円形で木曽のものより細長い。株数は岩壁の中程の高さまでは見られるが多数である。

(15) ノリクラアザミ *Cirsium norikurense* Nakai

この種の分布は横内斎氏によれば妙高山・北アルプス・筑摩山脈・八ヶ岳となっているが、釜無溪谷・入笠山方面にもある。木曽谷・伊那谷での分布と変化については拙著「木曽谷の植物」でも述べてある。筑摩山脈での産地としては美ヶ原台地西側が知られているが、昨年この台地の東側に面した山本小屋附近にも多いを見た。ここはこの方面における分布の東縁とみられるが、ここのものは葉が深裂し草丈は低い。

(奥原弘人)

(16) キバナイカリソウ *Epimedium cremeum* Na-

kai 裏日本要案と考えられているキバナイカリソウは、県内では北安曇郡の佐野坂附近までである。一方、下伊那郡とくに天竜川東側地域全体にもクリーム色の花のイカリソウが分布していることが知られていた(下伊那の植物 中巻)が、今春上伊那郡長谷村の丸山谷や巫女淵の石灰岩地を調べたところ、ここでも黄花ばかりであることが判った。なお、同村戸台川流域のものはイカリソウそのものである。南信地方の黄花イカリソウが北信のキバナイカリソウと同一物であるかどうか十分確かめる必要がある。

(清水建美)

〔新刊紹介〕 長野県植生図作製調査団「長野県の植生図 第 4 集」B 5 判, 137 頁 12 図幅。長野県発行(1976 年)。

本書は同シリーズの最終刊となるもので、これで長野県の 5 万分の 1 の植生図は完成した。地域は、長野、坂城、小諸、御代田、十石峠、金峰山、塩尻、高遠、市野瀬、大河原、赤石岳、井川の 12 地区となっており、またこの植生図の説明書が別冊となっている。長期にわたる調査と資料整理に多大な労力と時間を注がれた調査団の方々の労をねぎらいたい。長野県の植

生図については、横浜国立大学の宮脇昭教授の提言と指導のもとに、一貫した作業がおこなわれてきており、つい最近も「長野県の植生自然度図」が完成し、また「潜在自然植生図」も近々発刊される予定である。このような学問的にも価値あるさまざまな植生図を現実的に使用していくことが今後の課題であり、宝の持ちぐされとならないよう関係者の更なる活躍を望みたい。なお本書の入手は、長野市南長野市下(〒380)長野県庁自然保護課へ問合せられたい。(K. T.)